

最終効果額は約109億円

市は、平成23年3月に定めた第2次行財政改革大綱と同実施計画（23年度～28年度）に基づき、市民と行政が協働するまちづくりにより、持続可能な社会の急速な変化に対応できる行財政運営を目指し、財政運営の健全化に取り組んできました。28年度の取り組み結果と6年間にわたる行財政改革の効果・総括についてお知らせします。

■問い合わせ＝本庁行財政改革推進室（内線455）

28年度の取り組み結果

28年度実施項目の効果額は、約19億7600万円の計画に対し実績は約23億5800万円。119・4割の達成率となりました。

「負担金及び補助金の見直し」では、24年度から削減している一部負担金と補助金のさらなる見直しを図り、農地流動化助成金など一定の成果を上げた事業の統廃合などにより、計画比で1億1210万円上回ったほか、「職員数の削減」では、28年度当初で前年度比25人減の1122人となり、計画比で7523万円上回りました。

このほか、歳入対策については、「市税の収納率向上対策」として市税コールセン

ターによる電話催告などを行い、収納率98・9割は27年度と同率で合併以降最高となりました。

第2次実施計画の総括

大綱では、4つの項目に対して目標を掲げて取り組んできました。（表1）このうち「普通会計歳出規模」については、国の新たな政策の影響などにより市単独の取り組みが不可能となったことから28年度より除外し、最終年度は残り3つの項目に取り組ましました。地方債の新規発行抑制などで、財政調整基金現在高、地方債残高、実質公債費比率とも最終目標を達成しています。

また、102項目の実施計画では、効果額総額約98億3

400万円の計画に対し実績は約108億8900万円。110・7割の達成率で目標を上回る成果となりました。（表2）

歳出の削減では、実に効果額全体の約55割が人件費の削減によるもので、中でも「職員数の削減」では期間中に157人を削減して42億5439万円を、「一般職の給与見直し」では4年3カ月にわたる独自給与削減により13億4671万円を生み出しました。さらに、歳入の確保対策については、「市税の収納率向上対策」において21年度に97・9割まで落ち込んだ収納率を98・9割まで改善させ、9億1921万円の効果を生み出しました。「旧土地開発公社土地の売却促進」では、同公

社解散時に策定した処分計画どおりに宅地販売が進み、15億4744万円の効果を上げました。

これからの取り組み

社会問題となっている人口減少は、市財政の縮小につながり、現在の行政サービスの全てを維持することが難しく

■表1 第2次実施計画による成果実績（単位：億円）

項目	最終目標	H23	H24	H25	H26	H27	H28	結果
普通会計歳出規模	498 以下	609	682	615	584	605	—	H28より除外
財政調整基金現在高	80 以上	43	57	64	77	91	92	達成
地方債残高（※）	587 以下	580	651	630	584	566	547	達成
実質公債費比率	16.1%以下	17.8%	17.0%	16.8%	16.7%	16.3%	16.0%	達成

※償還費用が普通交付税の算定に含まれる臨時財政対策債分を除く

■表2 第2次実施計画による効果額実績（単位：億円）

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	計
人件費の削減	3	8	10	12	14	13	60
事務事業・施設の見直し	0	2	3	3	3	4	15
歳入確保対策	2	4	9	7	6	6	34
計	5	14	22	22	23	23	109
達成率	117.9%	99.7%	127.1%	107.2%	99.5%	119.4%	110.7%

なる一方、高齢化などによる社会保障費の増加、公共施設の更新など、市財政は一層厳しさを増す見込みです。

市は、ことし3月に第2次大綱計画を引き継ぐ「市行財政改革プラン」を策定しました。将来世代に多大な負担が残らないような行政経営に向け、刻々と変わる財政状況に適時適切な対応で取り組んでいきます。

みんなが、誰かのゲートキーパー



9月は自殺防止月間です

県では9月を自殺防止月間とし、「みんなでつなごういのちとこころの絆」をキャッチフレーズに自殺予防に取り組む社会づくりを推進しています。自殺は個人だけの問題ではなく、周囲にも深刻な影響を与えます。かけがえない大切な命を守るために、生き心地のよい地域となるよう、私たち一人一人ができることをはじめませんか。

心のサインに気付いてください

気づき 家族や仲間の変化に気付き声を掛ける
傾聴 本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける
つながり 早めに専門家に相談するよう勧める
見守り 温かく寄り添い見守る

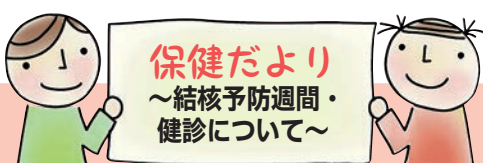
うまくストレスに対処しましょう

ストレスをため込まず、上手に発散し、心の休養をとることが大切です。自分に合った趣味活動など楽しいと思えることを身に付けましょう。

一人で悩まず、相談してください

さまざまな悩みを一人で抱え込んでしまうと、徐々に追い詰められていきます。問題が解決しなくても、話をするだけで不安が軽減したり、気持ちが楽になることがあります。まずは、相談してみましょう。

■問い合わせ＝本庁健康増進課健康づくり係（水沢保健センター ☎ ☎ 4511）

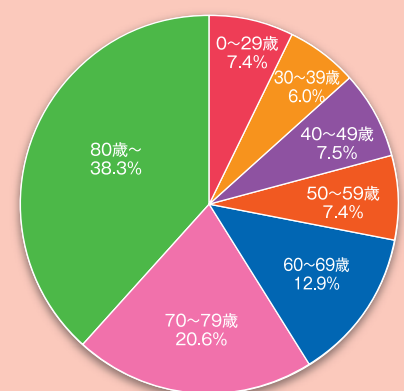


■結核は「現代の病気」！ 9/24～30は結核予防週間

結核は現代でも日本の重大な感染症です。1日に50人が新たに発症し、5人が命を落としています。県内でも年間約140人が発症しています。

結核は、せきやくしゃみで「空気感染」する病気ですが、感染しても必ずしも発病するわけではなく、

年齢階級別 結核新登録患者の割合（全国）



（厚生労働省 平成27年結核登録者情報調査年報集計結果より）

抵抗力が高ければ菌の増殖が抑えられています。しかし、加齢や何らかの病気などで免疫力が低下し、休眠状態の菌が活動することで結核を発症することがあります。平成27年の全国の結核新登録患者のうち、約60%が70歳以上の高齢者です。

■2週間以上続くせきは要注意！ 早めの受診を

結核の初期はせきやたん、微熱など風邪に似た症状が出ます。風邪と思い込んで発見が遅れると、重症になるばかりでなく、気付かないうちに周囲の人にうつす恐れがあります。2週間以上せきが続く場合は早めに受診しましょう。

■予防と定期的な健診を

乳幼児が結核に感染すると、結核性髄膜炎など重い後遺症を残すことがあります。生後5カ月を過ぎたら早めにBCGワクチンの予防接種を受け、赤ちゃんのうちから免疫を作ることが大切です。

市では、40歳以上の人を対象とした肺がん検診・結核健康診断を10月まで実施しています。職場などで胸のX線検査を受ける機会のない人は、年に一度は市の健診を受けましょう。

■問い合わせ＝水沢保健センター（☎ ☎ 4511）